



## 東地中海地域ニュース

### エジプト/サウジアラビア/レバノン：アラブ連盟（首脳会議に向けた動き） （3月23、24日付現地報道）

29日から2日間、シリアのダマスカスで開催を予定しているアラブ連盟首脳会議に向け、関係各国での動きが活発化している。各国からの報道振り：

#### 1. エジプト紙：

- (1) 24日朝、ダマスカスにおいて、アラブ連盟常駐代表の会合が開催される。これは29日にアサド・シリア大統領を議長として開催予定のアラブ連盟首脳会議の議題案を準備するための会合であり、26日にはアラブ連盟の財務・経済閣僚級会合が、27日には外相会合がそれぞれ開催される予定である。
- (2) 常駐代表の会合で議長を務めるユーセフ・アフマド駐エジプト・シリア大使は、アラブ連盟首脳会議の議題案の原案には23の項目が含まれており、その中には、アラブ諸国間の関係、アラブ諸国が直面する諸問題パレスチナ問題、アラブ・イスラエル紛争、ゴラン高原の現状、レバノンとの連帯及びレバノンに対する支援、イラク情勢などがあると述べた。
- (3) また、外交筋は26日に開催されるアラブ諸国の財務、経済閣僚級会合では、2009年にクウェイトで開催される予定のアラブ経済・社会・開発首脳会議に向けた準備として多くのテーマが議論される予定であると述べた。

#### 2. サウジアラビア：(アラビーヤ放送)

24日、アラブ首脳会議のため経済及び政治ワーキング・ペーパー準備のため、アラブ連盟常駐代表の会合がダマスカスにおいて開催され、アハマド・アル＝カッターンアラブ連盟サウジ常駐代表は、アラブ首脳会議にアブドゥラー国王ではなく、同代表がサウジ代表団を率いて出席すると発表した。

#### 3. レバノン：

23日にレバノンのベッリ国会議長（野党グループのシーア派団体アマルの指導者）はテレビの対談番組に出演し、アラブ連盟首脳会議への出席について下記の通り発言した。

- (1) セニオラ首相は出席しないであろうが、セニオラ首相がレバノンを代表して出席するよう呼びかけたい。もし首脳会議が一定レベルと数の出席者を得て行われるのであれば、レバノンも出席すべきである。セニオラ内閣は憲法や国民協約に則ってい

ない正統性を欠いた内閣であるが、存在していることは事実である。

- (2) (2006年11月にジュマイエル工業相が暗殺されて以降空席となっている工業相のポストに父親のジュマイエル元大統領が就き、セニオラ内閣を「強化」した上で、同元大統領がアラブ連盟首脳会議に出席するのではないか、との観測について質問されたのに対し、直接答えることなく、スレイマン国軍司令官のような公式代表団以外の者が首脳会議に出席すべきではない。同首脳会議は、首脳のためのものであって、軍トップのものではなく、同様にレバノンの野党グループ関係者も出席すべきではない。
- (3) シリアでのアラブ連盟会議でレバノン危機の解決案が見出されなければ、国民に対話を新たに呼びかけるため、エジプトやシリア、サウジアラビといったアラブ諸国やその他の日アラブ諸国とも相談するつもりである。新たな国民対話での議題は、挙国一致内閣と国会議員選挙法の2つである。レバノンでの政治対立は、シリアとサウジアラビアの危機的關係とも関係がある。
- (4) (ムグニエ・ヒズブッラー軍事指導者暗殺に対する反撃を警戒して、イスラエルが厳戒態勢を敷いていることに対し)近い将来、イスラエルと武力紛争が起きることはないと思う。イスラエル側で行われているのは演習の枠内のことである。
- (5) 現在最も危険なのは、スンナ派とシーア派の抗争である。これは、中東地域全体を対象とした陰謀である。アラブ諸国とイランの指導者間での対話が続けられることを望む。

---

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799